

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	290800036		
法人名	医療法人光和会		
事業所名	にこにこハウス金曲		
所在地 (電話番号)	〒035-0041 青森県むつ市金曲3-5-29 (電話) 0175-23-1660		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 8月 25日	評価確定日	平成 20年 11月 4日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 3月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低 62 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人光和会 村中内科・心療内科医院、浪岡歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に立地しているが、ホームの敷地内には畑のスペースも設けられ、身体的に難しくなっている中でも共同で季節に合わせた畑づくりをしている。スタッフの声掛けする口調や入居者と向き合う姿勢も穏やかであり、入居者がゆったりと安心して生活されている様子が伺えた。医療的なバックアップを生かし、重度化・終末期に向けた取り組みも行われている。地域との関わりも強化されてきており、日常的なふれあいが行われている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の開催が課題の一つとなっていたが、現在は改善され開催されている。同業者との交流を通じた向上への取り組みについては、管理者同士の相談はあるが、グループホームとしての取り組みまでは至っておらず、今後の課題として期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	毎月の会議の中で一つの課題について検討しており、スタッフの意識を高めている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	運営推進会議の開催については、必要性の理解が図られ、理事長、地域包括支援センター、民生委員、家族2名にて行なわれており、事例の相談にもっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	来所時に話をする機会を作り個人の生活の様子を伝えながら、意見等を聞くようにしている。家族からは不満と言うより要望が多く聞かれており、プランや普段のケアに反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会し、回覧を入居者と一緒に回している。夏祭りでは野菜の販売やバザーに参加したり、町内のねぶたの運行時には立ち寄ってもらったりするなど、地域にグループホームが根付いてきており、近所の人たちも立ち寄る機会も増えている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方、介護を取り巻く人達の生活の場として、皆で考え、方言を交えた理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	普段、皆が集まる場所の目にしやすい位置に掲げてあり、毎日入居者も声に出し読んでいる。訪問中も笑い声が飛び交い皆さん明るい表情で過ごされている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入会し、回覧を入居者と一緒に回している。夏祭りでは野菜の販売やバザーに参加している他、町内のねぶたの運行時には、話を持ちかけ、立ち寄って頂き、子供達と触れ合いながら、昔を思い出しながら、歌ったり踊ったりする機会が作れている。今後も子供達との交流を保てる様に話を持ちかけている。地域にグループホームが根付いてきており、近所の人たちも立ち寄る機会も増えており、グループホーム側からも声を掛け、自由にホーム内を見て頂いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価事業は職員全体で話し合い作成している。前年度の改善課題へも取り組みがなされており、サービスの質の向上に努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	理事長、地域包括支援センター、民生委員、家族2名にて行なわれている。事例の相談にのったり、契約・重要事項・終末期ケアについても取り上げたりして、理解が得られるよう取り組んでいる。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度など、分からない部分や疑問点については、担当者に連絡を取り、資料を頂いたり、直接話しをもちかけたりしており問題解決に取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際の対象者がいたり、相談があったりはしないが、法人の全体会議の際に研修会を行ない、知識を高めている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1日1回のミーティングの中でも確認している他、防止に向け管理者は常にスタッフのストレスについても配慮している。スタッフ同士でも注意し合い、その場でケアを振り返っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の他、内容に変更があった時には説明し、理解・納得を得ている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には変化の有無に関わらず状況を伝えている他、毎月の請求書を発送する際に、個人の状況を記して伝えている。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に話をする機会を作り個人の生活の様子を伝えながら、意見等を聞くようにしている。家族からは不満と言うより要望的な事が多く聞かれており、プランや普段のケアに反映されている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一部は固定であるが、デイサービスとのローテーションを組んでおり、入居者と顔馴染みとなることにより、ダメージが避けられている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時1ヶ月は見習い期間として、スタッフと一緒に動きをしトレーニングしている。日常のケアの中でも助言しながら、育成に取り組んでいる。外部研修の機会も増やしており、研修参加の希望を募っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部研修や他のグループホームの見学を通して、情報を交換している。	○	管理者だけでなく、職員も事例検討会や同業者との交流をする機会を通して一層のサービスの向上を期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までに付き合ってきた人との関係を断ち切らないように、希望時には通っていたデイサービスに出向いたり、家族の協力を得ながら、美容室への外出支援を行ったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーション・人との輪を大事にしている。徐々にADL(日常生活動作)の低下してきている入居者もいるが、今出来る事を見つけ一緒に取り組んでいる。入居者同士の中でも、自然と助け合う姿が見受けられている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの聞き取りをしている他、日常の行動や表情からも推測し、スタッフ間で情報共有し合い、日々のケアに生かしている。夜間起きてきて本音をスタッフに話される方もあり、常に一人一人について関心を寄せ、受け止め、安心ある生活となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全スタッフで意見を出し合い本人の思いや状況を見極めながら、家族にも現状の理解をして頂けるように話し合いを行い、一緒に過ごしあう事を勧めたり、本人と家族のお互いの思いが結びつくように計画している。計画を実行出来た事で、お互いの自信へも繋がっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式の活用にも取り組まれている。定期的な見直しの他、毎月のカンファレンスの中でも意見交換も行われている。必要時には見直しを行い、家族からも同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて受診の支援を行ったり、本人の希望を軸に支援している。医療連携体制が生かされ、入居者の負担も少ない。併設施設との行き来は自由であり、楽しく生活している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的に家族の同行となっているが、状況に応じスタッフが対応してる。看護師が常に居るために変化時の相談や対応は早くに行えている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	連携体制も整っており、日常的な健康管理を含め、医師、家族と話し合いをし、方針を共有している。間近で対象者もあり、看取りを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声がけや対応を含め、日々の関わりに関しても職員間で振り返り利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調に配慮しながら、コミュニケーションを大切にし、気持ちを尊重した臨機応変な個別支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを把握しており、希望時には食べれるように支援している。入居者・スタッフは共同でも調理から片付けまで、出来る部分で参加されている。糖尿病の方も医師との相談の上、助言を頂きながら、食事が楽しめるように取り組んでいる。又、食事に変化がもてるように、オードブル形式で提供したり等工夫しながら入居者・スタッフが一緒に食事を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴される方もいる。本人の習慣を大切に、回数・時間帯についても要望を取り入れながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人が自然に何らかの役割を持って意欲的に活動できるよう、声がけをしたり、得意な事を徐々に行ってもらったりするなど、張り合いや喜びのある生活への配慮がなされていた。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせ、近隣を散歩したり、買い物やドライブ等に出掛けたりしている。車両の準備もされており、車椅子の方でも不自由なく外出を楽しまれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会も行っている。利用者が抱えるリスクに対し、正しい知識をもって、日々の関わりについて、スタッフ同志で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間玄関の施錠は行っているが、日中は行っていない。目が届く位置での見守りを行い、スタッフで意識付けがなされている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練のほか、自主訓練、立ち入り検査も行っている。避難経路の確保はされている。地域への呼び掛けは行っているが協力体制までは確立されていない。	○	今後は地域を交えての訓練の取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録方法についても、統一を図り行い、その方の状況に合わせ、補食を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを活用している。医院からも情報が届くので早くから対応出来ている。インフルエンザの予防接種について、同意を得て行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小上がりの畳のスペースが設置されている他、思い思いの場所で過ごせるように、使い慣れているソファを共用空間内に配置している。自然な光を取りこみ、観葉植物や水槽が置かれ、居心地の良い空間をつくっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく今まで使っていた物を持ち込めるように呼びかけ、本人の力が生かせるように、相談しながら決めている。		

 は、重点項目。